

## 令和6年度 授業改善推進プラン 第5学年

各教科及び 道徳	学力調査等の結果分析 児童の学習状況	指導上の課題	改善の計画	プランの評価方法
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叙述をもとに、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。</li> <li>・教科書や資料から分かったことをまとめ、伝えられるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて文章を要約したり、筆者の主張に対する自分の考えをもったりできる手だてが必要である。</li> <li>・文章の中で、漢字と仮名を適切に使い分け、文章を正しく書く力を身に付ける必要がある。</li> <li>・文法の「理解・活用」に苦手さが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとに身に付けさせたい「資質・能力」を明確にする。</li> <li>・行動や会話、情景に着目させ、登場人物の気持ちを捉えさせることを意識して指導する。</li> <li>・学習支援ソフトを活用し、本文の叙述をもとに読み取ることを意識づける。</li> <li>・学習する单元に沿った関連図書を用意し、並行的な読書活動を行い、読書への興味関心を高めていく。</li> <li>・日常的に漢字を使いこなせるように、指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストで80%以上取れているかで評価する。</li> <li>・ノートやワークシート、<u>デジタル教科書</u>などを活用し、叙述から登場人物の気持ちを捉えられているかで評価する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や資料などから自分の考えをまとめることができる。発展して学習者用端末のスライド機能などで気付きをまとめ、発表できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取る力を身に付ける必要がある。</li> <li>・調べたことなどをグラフなどに表現できる手だてが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことをもとに、学習者用端末のスライド機能を活用した発表や、新聞作りソフトを活用した新聞づくりなどで表現する活動を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストで80%以上の点数が平均的に取れているかで評価する。</li> <li>・<u>ノートやワークシート、デジタルスライド</u>などを活用して、<u>自分の考えをまとめているかなどで評価する。</u></li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題等では数直線を使って計算の仕方を説明する児童が多くなっている。</li> <li>・前学年のベーシックドリル診断テストでは、数直線の読み取りや分数のたし算や引き算の計算が身に付いていた。</li> <li>・コンパスやものさし、分度器を使って作図することに意欲的な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割り進めたり概数で答えたりするわり算の計算ができるように丁寧な指導が必要である。</li> <li>・複雑な形の面積や直方体と立方体の体積を求めることができるようにする手だてが必要である。</li> <li>・概数の理解が定着できていない。</li> <li>・倍の見方の問題に苦手な傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モジュールの時間や家庭学習に、タブレットドリルやベーシックドリルを活用して、わり算の問題や面積、体積を求める問題、概数に関する問題を多く取り入れ、習熟できるようにする。</li> <li>・学習支援ソフトを思考の助けとなるように活用する。</li> <li>・板書では意図的に、数直線のモデルを示すようにし、児童にも数直線を書かせることで、書くことに慣れるようにする。特に倍の考え方で、もとにする量がどれなのか説明する機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段のワークテストで、80%以上とれているかで評価する。</li> <li>・東京ベーシックドリルの診断テストで、80%以上とれているかで評価する。</li> <li>・ノートやホワイトボードに自分の考えを書く時間を確保し、説明ができていのかどうかで評価する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの单元も問題解決学習の流れで授業を行っている。特に計画では、条件制御をすることを大切に授業している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的なものの見方や考え方を活用できていない。</li> <li>・理科の用語や試薬、器具の使い方など知識が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の「見方・考え方」を働かせることができるような授業を構成する。また、その際には、視聴覚機器を効果的に使い、思考が深まるようにする。</li> <li>・日常生活や今までの学習等とつなげるようにして、知識を活用しやすくする。</li> <li>・学習者用端末のスライド機能を活用してフラッシュカ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート評価の指標を定め、2学期が終わるまでにノートの質が高まったことを評価する。</li> <li>・普段の小テストで、80%以上とれているかで評価する。</li> </ul>

			ードのように授業の最初に用語や試薬、器具などの知識が定着するようにする。	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 曲想を考えながら、表情豊かに演奏することができている。</li> <li>• 周りの声を聴きながら、合唱することができている。</li> <li>• どの活動も意欲的でまじめに取り組めるので、発展的な学習ができている。</li> <li>• 鑑賞の学習では、楽器の音色や特徴をよく理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽譜を理解して、簡単なリズムは演奏できるが、難しい符点のリズムなどは練習時間が必要である。</li> <li>• 強弱記号などはよく理解しているが、音符の長さなど理解するために繰り返し覚える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 常時活動では、発声練習や音符の長さ等の基本的な知識をワークシート等に取り入れていく。</li> <li>• 合奏に取り組み、協働的な姿勢を学ばせる。</li> <li>• 音楽づくりを楽しむとともに、互いに聴き合うことによって自分の考えに深まりをもたせる。</li> <li>• 和音の響きなど、ICTを活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークシートや他の提出物で評価する。</li> <li>• 協働的な活動の様子と振り返りシートで評価する。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 工作ではこれまでの経験を活かして、主体的に用具や材料を使って製作している。</li> <li>• お互いの作品を鑑賞し合い、「自己理解・他者理解」を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「参考画像・動画」の通りに作品を製作しようとするのがあったので、ICT機器を活用する場面のルールが必要である。</li> <li>• 「材料・用具」を活用して、積極的に絵画作品に取り組みさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鑑賞活動やふりかえりにICT機器を活用していく。</li> <li>• 調べた「画像・動画」を参考にする際のルールを設定して、ICT機器を活用していく。</li> <li>• 児童がイメージをもち、表したいことを見付けられるように材料や用具を活かした場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 振り返りシートを使って、製作過程ごとの自己評価や作品の変化を評価する。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体育の学習に意欲的な児童が多い。</li> <li>• ボール運動領域の学習で、チームへの所属意識、集団スポーツに対する「見方・考え方」が身に付いている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 勝敗に対して正しい態度を身に付けられるようにする。</li> <li>• <u>運動の行い方を理解し、自分や仲間の考えたことを伝えあうことを目指す。</u></li> <li>• 器械運動に関する技能が低い児童には、個別に指導していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 勝敗がかかわる場面では、教師が審判をするのではなく、両チームが納得のいく形で解決できるように、審判役や相互審などの役割をもたせる。</li> <li>• 学習カードやチームカード、作戦ボードなどの課題解決のための教材を充実させる。視聴覚機器を活用し、技能の向上に役立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>ワークシートなどを活用し、学習の振り返りを行い、自己評価を行うことで、主体的に取り組む態度を評価する。</u></li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校で学習や実習した内容が定着し、家庭でも取り組む児童が増えた。</li> <li>• 調理実習でも、安全な調理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業の導入では自分の家庭生活を振り返る発問を入れることで身近に感じさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実験や実習、調査や観察など、実践的、体験的な活動の時間を確保し、実感を伴った理解ができるようにする。</li> <li>• 家族の一員として自分の生活を振り返り、自分にできることは何かを考え、計画を立てさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>学習プリントや振り返りの記述で、「思考・判断・表現」の観点で評価する。</u></li> <li>• ワークテストを活用し、80%</li> </ul>

	を意識しながら活動できた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中から問題を見いだして課題を決定し、様々な解決方法を考え、実践させていく。</li> </ul>	以上とれているかで、知識が身に付いているか評価する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容に即したオリジナルスキットの繰り返し練習に積極的に取り組んでいた。</li> <li>ペアでの会話練習も、楽しみながら意欲的に行っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発音が定着するような手だてが必要である。</li> <li><u>アルファベットや単語、また簡単な文を書くことに課題がある。継続的な学習が必要である。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援ソフトを活用し、「聞く・話す・読む・書く」をバランスよく習得させる。</li> <li>スキットは定型文の練習だけでなく、自分に当てはめた内容で自由に会話する練習をし、自信をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の発言や参加態度から評価する。</li> <li>ワークテストの結果で評価する。</li> <li>「発表・会話テスト」で個別に評価する。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループでの話し合い活動を通して、多様な考えに触れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳的価値を自分自身の経験場面と結びつけることができる手だてが必要である。</li> <li>学びや考えたことを実生活に活かすことが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループでの話し合い活動をする時間を設定することで、多様な考えに触れられるようにする。</li> <li>道徳ノートを活用して、「今まで」「今」「これから」の視点を意識して書けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>ワークシートなどの振り返りの記述から</u>、「今まで」「今」「これから」の視点で書けているかを評価する。</li> <li>実生活で学びを活かしている児童を評価していく。</li> </ul>